

インターバンクの声（2015年3月16日）

今月初めに発表された米国の1月個人所得・支出や2月ISM製造業景況指数などに市場予想を下回る結果が散見されていたものの、6日の堅調な雇用統計結果が、そうした弱目の指標結果による足許の米景気への懸念を全て帳消しにしていた。ところが、12日に発表された2月の小売売上高に続き、金曜日に発表された2月の生産者物価指数と3月のミシガン大学消費者信頼感指数（速報）の結果も予想外に悪く、今週の米連邦公開市場委員会（FOMC）の決定を予想するのが再び難しくなっている。FOMCへの注目は、声明から「辛抱強く」の文言が削除されるか否かで6月或いは9月の利上げ開始時期を占うとするものだが、木曜と金曜の指標結果で6月利上げ見込みが大幅に減ってしまったかも知れない。この結果に金曜日のニューヨーク株式市場は、前日の大幅上昇分を半分以上消す反応を示したが、為替市場のドル買いにはほとんど影響がないと言ってもよく、株価への反応よりも米中長期金利が下げずに動いていたことがドルを支えたようだ。ちょっとFOMCが終わるまでリスクを取り難くなってしまった。

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。